

平成31年4月1日

(1) 学校教育目標

『豊かな人間性、確かな技術を身に付け、

京都から社会の発展と人類の幸福に貢献できる人材を育成する。』

※教育目標実現に向けて、以下の資質・能力の育成を目指す〔育てる生徒像〕

- ① 自己実現を目指し他者を理解する豊かな人間性を持つ生徒
- ② 専門的・先端的な知識と技術を身に付け、生涯にわたって継続して学習意欲を持つ生徒
- ③ グローバルな視野を持ち、リーダーシップを發揮して社会に貢献し、活躍できる生徒
- ④ 高い倫理観と責任感を持ち、社会・地域の一員として他者と連携し協働することができる生徒
- ⑤ 英知を結集し、社会を支え未来を切り拓く、次世代の科学技術を担う生徒

(2) 重点目標

新元号となる節目の年度、工業教育発展のため、開校以来築いてきた土台を基にさらなる飛躍を目指す

①「豊かな人間性」の涵養

- ア. 美しい清らかな心と高い志を持ち、科学技術で社会の発展に貢献できる人材を育成する。
- イ. 多様な他者と協働し、広い視野と豊かな感性を働かせる人材を育成する。
- ウ. 社会規範を遵守させるとともに、挨拶や清掃の励行、交通マナーの向上に努めさせるなど、基本的生活習慣を確立させ、社会性を培う。
- エ. 道徳教育推進教師を中心にお互いの価値観を認め合い、教育活動全般を通して道徳教育を推進する。

②「主体的・対話的で深い学びにつながる学習意欲」の育成

- ア. タブレットの活用や自習室の有効利用により、校内や家庭での学習習慣を確立させる。
- イ. 組織的に全教科アクティブ・ラーニングを導入し深い学びを促すとともに、プロジェクト型学習スタイルにより、粘り強く課題設定や解決する力を養い、生徒の自学自習力を育成する。
- ウ. 授業だけでなく、経営者や科学技術者の講演やディスカッション、さらにはインナーシップなど、産官学連携した教育活動を通して、学びの有用性を実感し生徒の学習意欲を高める。
- エ. 加速度的に深化するグローバル社会に柔軟に対応する科学技術者を育成するため、最新の施設設備の点検を定期的に行い、様々な分野の人材と協働して課題解決力・実践力を身に付ける。
- オ. 関連性の高い Science (科学) Technology (技術) Engineering (工学) Mathematics (数学) Art (デザイン戦略) の領域を一体的に学び、STEM 教育 (京都工学院 STEM) を推進する。

③「地域に愛される学校づくり」の推進

- ア. 「キャリアと公共」の在り方を学年団と研究部で再検討し、公共心を育成するとともに、地域と連携した体験活動やボランティア活動を実践することにより、地域産業を担う人材を育成する。
- イ. 教育活動や部活動等の最新情報を積極的に外部にホームページや説明会、発表会で発信する。
- ウ. 本校の教育活動について、教職員による自己評価や生徒・保護者による学校評価アンケートを実施する。そして、その結果を学校評議員等や関係者に公開するとともに、目標の達成状況や取組状況等について検証を行い、次年度からの教育活動にフィードバックする。
- エ. 施設・設備の点検を定期的・日常的に実施するとともに、不審者の侵入や自然災害などに適切に対応できるよう危機管理体制を整備し、生徒の安全・安心な学校生活の保障と地域の信頼に応える学校づくりに努める。

④ 教育者としての職責を自覚し、専門性を高めるとともに、働き方改革を推進

- ア. 公開授業を積極的に行い、教職員個々の課題解決を目指した校内研修の充実を図る。
- イ. ICT の有効活用による校務の効率化、部活動ガイドラインに基づく適切な休養日や練習時間の設定など、学校における働き方改革を推進し、より一層の教育の質の向上に努める。
- ウ. 持続可能な開発目標 (SDGs) の理念を理解し、地域社会と連携した取組を推進する。

(3) 具体的取組

- ・全教科にアクティブ・ラーニング（AL）を組織的に導入することと課題解決型学習（PBL）の実践、そしてタブレットPC等ICT活用を教師自らが積極的に取り入れることを前提とし、生徒に学ぶ喜びや達成感を味わわせるような授業内容や授業手法の工夫・改善を常に意識し、向上心を持って取り組む。
- ・自ら主体的に人間としての在り方生き方について考えよりよい選択・判断をし、責任を持って行動する力と、諸課題を様々な人と協力して解決できる力を育成する。
- ・研究授業や公開授業を実施し、「教育のスペシャリスト、教えるプロフェッショナル」として専門性と実践的指導力の向上を図る。また、学校生活のあらゆる場面において生徒の心の内面を多面的・総合的に理解するよう努め、生徒の望ましい人間形成につながるよう支援する。
- ・教員間の情報交換を密に行い、上記の具体的取組が実践しやすい教育環境をつくる。

① 教科指導

- ア. 基礎・基本の定着を図るとともに、AL及びPBLを積極的に取り入れることにより幅広い学力を身につけさせる。また、タブレットPCを有効に活用し、生徒に学ぶ喜びを味わわせ、意欲的な自学自習力を育てるために学習内容の充実と向上に努める。
- イ. 学習支援ソフトのロイロノートやClassi、スタディサプリを活用し生徒の個性や学習の状況を的確に把握し、生徒一人一人の興味・関心等に応じて学習課題を設定し、きめ細かい指導に努める。
- ウ. 研究授業や公開授業を定期的に実施し、教職員の研修を深めるとともに、指導内容・指導方法の工夫改善、教材の精選・焦点化を図る。教育効果を高める授業の創造に努める。
- エ. 担任団や各分掌と連絡を密にとり共通理解を図るとともに、円滑な運営を心がける。

② 生活指導

- ア. 感性豊かなさわやかな学校づくりを通して、互いが思いやりや感謝の気持ちを大切にし、豊かな人間関係を育むとともに、生命や人権を尊重する人間性の向上を推進する。
- イ. 信頼関係や協働関係を通して、こころ豊かにたくましく生きる人間の育成に努める。
- ウ. 家庭・地域と連携を図り、その教育力を活用して生徒一人一人の健全育成を目指す。
- エ. 社会のルールの意義や内容について機会をとらえ説明し、生徒の豊かな人間性や社会性を育むことにより、地域に貢献する人材を育成する。
- オ. スクールカウンセラーや保護者との連携を図り、生徒の心のケアや教育相談を充実させる。
- カ. 人権に係わる今日的な課題についての認識を深めるための教職員研修を計画的に実施し、教職員の人権意識を高め、資質の向上を図るとともに、自己を理解する態度を養う。
- キ. 担任団や各分掌と連絡を密にとり共通理解を図るとともに、円滑な運営を心がける。
- ク. 情報社会における正しい判断や望ましい態度を育てる「心を磨く領域」とセキュリティの知識・技術、健康への意識を育てる「知恵を磨く領域」の内容をバランスよく系統的に指導する。

③ 進路指導

- ア. 生徒一人一人のニーズを尊重し個性や能力を伸ばし、将来の在り方生き方を考え、夢や希望を持って自己実現を達成できるよう指導援助する。
- イ. 進路や職業に関する適切な最新情報を提供し、個々にあった進路目標を設定できるように指導援助する。
- ウ. 主体的に進路選択できる能力や態度の育成を図り、キャリア教育を推進する。
- エ. 大学研究室訪問やプロジェクトゼミにおける大学との共同研究、JAXAとの共同教育プログラムの推進など、大学や研究機関との連携事業を推進し、生徒の進路意識の高揚を図る。
- オ. インターンシップや企業訪問、経営者や科学技術者の講演及びディスカッション等、産業界と連携した事業を推進し、自己実現を達成するために必要な勤労観・職業観を育む。
- カ. 担任団や各分掌と連絡を密にとり共通理解を図るとともに、円滑な運営を心がける。

④ 特別活動

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、公共の精神や健全な生活態度を含め人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

ア. 学校行事

教育目標に沿って、常に新しい視点で学校行事を見直し、その充実精選に取り組むとともに、地域社会に対する参画意識を高め、社会性や自主性など豊かな人間性を育む。

イ. ホームルーム活動

自己理解を深めさせ、話し合いや集団活動への積極的な参加を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、将来の在り方生き方を幅広く考えさせたり進路意識の高揚を図るなど、自己を生かす力や自主性・社会性を育成する。

ウ. 生徒会活動

生徒会行事に自主的・自発的に取り組んだり、積極的に参加したりするなど、学校生活の充実向上に努める。また、自主的・実践的な活動を支援できる体制づくりに努め、その活性化を図る。

⑤ 部活動

高等学校における部活動は、学校教育の一環として行われるものであり、技能の向上のみならず、生徒がスポーツや芸術文化及び科学等に親しむとともに、生徒の自主性や自発性を重んじて行われることで、学習意欲の向上や責任感・連帯感の涵養、好ましい人間関係の形成等、生きる力の育成と豊かな学校生活の実現に意義のある活動である。

運営・指導については、京都市立高等学校部活動ガイドラインに基づき、本校の部活動運営方針を遵守する。

ア. 広大施設や最新の設備を活用し、体育系・工学系・文化系ともに生徒が向上心と創意工夫をもって活動することで、学校の一層の活性化を目指す。

イ. 各種競技会・コンテスト等において高い目標を追求することを通して、望ましい人間形成を図る。

ウ. 指導者が絶えず新しい知識や技術、指導方法などの情報を積極的に収集し習得する。勝利至上主義に陥った指導者本位の運営を行うのではなく、生徒とコミュニケーションを図りながらニーズや意見を把握し、生徒自身が計画、実践、評価、改善に主体的に関与できるようにする。

エ. 最新の研究成果等を踏まえた科学的かつ安全な指導内容、方法を積極的に取り入れ、指導者同士や学校内外での指導力の向上のため研修、研究に努める。